

みんなの声をきいて 明るい未来の金ケ崎を

金ケ崎町は小さいけど、魅力が詰まった素敵な町だと私は思っています。しかし金ケ崎町に住んでいて、金ケ崎駅、六原駅の無人化や道路の整備が不十分な所があったりと、年々不便さを感じる場面が増えていきます。さらに、町内で唯一の高校である金ケ崎高校も統合される方針が進んでおり、このような状況下では、Z世代が町外へ流出してしまうのは避けられない状況です。実際、私の友人も、将来金ケ崎町に住んで、働きたいと考えている人は多くは居ません。だからこそ、中高生が自分たちの意見を出し合い、「Z世代が輝ける町」をつくっていくことが必要だと思います。そうすれば地域にもっと活気が生まれ、沢山の注目を集め、Uターン移住などが増えて行くのでは無いかと思います。

Z世代がまちづくりに関わることで、町の魅力度も高まり、外からも注目されるような、明るく希望にあふれた町にしていけるのではないかと、私は考えています。



もりかわ
盛川 あかりさん (花巻南高校2年)



有住 龍星さん (地域おこし協力隊)

この町で挑戦する君と 一緒に頑張りたいから

3年前に生まれ育った故郷・金ケ崎へ戻ってきて地域おこし協力隊としての活動をスタートしました。高校生活の3年間を”地域と関わる最後の期間”であると捉え高校生と金ケ崎との接点創出、居場所づくり、学習塾などに挑戦してきました。私がこの3年で様々な挑戦をしてこられたのは、たくさんの町内の方々からの応援・後押しのおかげです。

「まずやってみよう」「助けてやるから」など、良い意味でのお節介な関わりは一步踏みだす勇気になりました。地域おこし協力隊として金ケ崎に戻ることを決意したのも、若者の挑戦を応援してくれる金ケ崎の土壌があると知ったからです。

今、高校のカリキュラムも転換期であり学校外での活動が増えてきています。高校生が地域に関わる機会が高校生の可能性を広げられるのも金ケ崎なら可能だと思います。

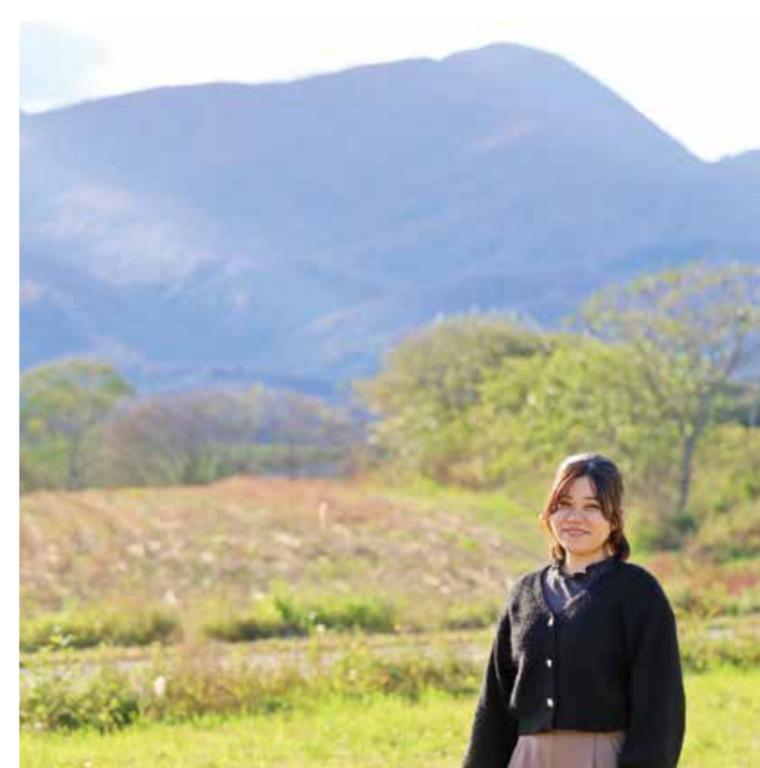
これからも自分も挑戦し続けながら、金ケ崎に関わる中学生・高校生の挑戦を後押しできるよう努力していきます。



私の好きな町の景色が もっと増えたら嬉しいな

金ケ崎町の「空が好き」「自然が好き」「食べ物が好き」「どこかわからない道が好き」これは前から感じていたこと。金ケ崎町の「人柄が好き」「各地区がそれぞれ文化を残し続けているところが好き」「想像以上に広がった金ケ崎町がおもしろい」これは地域おこし協力隊になって気づいたこと。そんな金ケ崎町を皆さんに紹介したり、金ケ崎町を探検しながら私の頭の中で道がつながること、関わった人たちがつながっていたり、新しいつながりが生まれる瞬間を見られることが今幸せです。

時代の変化に合わせ、新たなきっかけを通して盛り上げてほしい。今まであるものも残し続けてほしい。それぞれの良さを取り入れながら皆さんの好きがあふれる町、なんだか心地の良い町、自分らしくいられる町に町内出身の方はもちろん、金ケ崎町に関わってくれた方や興味を持ってくれた方にも感じられる。そんな町になるよう大好きな金ケ崎町の1つ1つを伝え、より多くの人に日々の幸せに気づいてもらいたいです。



佐々木 楓倫さん (地域おこし協力隊)

「自分だからこそのできたこととはほんの数パーセント。残りはずべて支えてくれた人がいたからこそ。そんな大切な仲間がこの町にはたくさんいる——」70周年記念講演の講師をした松田さんが語った金ケ崎町の魅力です。

70年の節目を迎え、新たな次の一步を踏み出す金ケ崎が、その先に進むためには、金ケ崎に根ざしてきた人々の思いをつなぐ事が大切です。高橋町長は「70年の歴史があるからできること。今までつないできた人々の思いがあるから、10年、20年先、そして100周年を考えることができる」と話します。

金ケ崎に暮らす人、金ケ崎で働く人、金ケ崎を訪れる人、金ケ崎で学ぶ人、金ケ崎を楽しむ人が増え、そしてつながること。そこで生まれる交流や想いが次の金ケ崎を作っていく原動力です。みんなが金ケ崎を愛し、笑顔で輝き続けられる。みんなで支え合い、助け合いながら素敵な町にしていきたいでしょう。

70年のその先へ